



第18号

みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

発行日
平成16年12月1日

◇ 目 次 ◇

- | | | | |
|----|---------------|-----|----------------|
| P2 | 台風18号宮島に甚大な被害 | P7 | 自然解説研修会 横路 晃 |
| P3 | PV 包ヶ浦などで倒木始末 | P8 | 投稿 東北紀行 横山忠司 |
| P4 | 弥山の町石しらべ | P9 | 公募観察会 編集後記 |
| P5 | その2 岩崎義一 | P10 | 事務局からの連絡事項 |
| P6 | JPR支援 第2回、第3回 | | PV 行事参加状況、行事予定 |



ヤマモガシ

熱帯系の常緑広葉高木で県内では沖美町（江田島市）宮島町にのみ分布し、宮島はほぼ北限にあたるようで、広島県は準絶滅危惧（NT Near Threatened）に選定しています。

夏に黄白色の総状花序をつけます。つぼみは細長いこん棒状で、開花すると四つの花被片が外側にくるりと巻きます。めしべが突き出しそれぞれの花被片に葯をつけた面白い花です。

今夏の格別に暑いさなか、新川さんと宮島にわたり包ヶ浦方面へ歩くこと一時間、鷹ノ

巣高砲台分岐点から約10分ぐらいの道路沿いで、ようやく出会えました。

「写真・文」 前田 勲

※ 「消えつつある植物たち」
広島県の絶滅危惧植物と題して広島市の植物公園で展示会が開かれています。

（～12月23日まで）

台風18号宮島に甚大な被害！

PV 包ヶ浦などで倒木・折枝片付け

9月7日に中国地方を襲った台風18号は広島市で最大60m/secという記録的暴風となり宮島にも甚大な被害を与えました。PVの会では急遽、行事予定を変更し、公園や登山道の倒木、折枝の片付け、清掃作業を3日間、延べ73人の参加を得て実施しました。

9月20日 大元、包ヶ浦

9月23日 大聖院登山道

(両日参加) 足立 池下 池田 小川

佐藤 末原 平山 舛田 丸平 村上 柳瀬

矢吹 山根 六重部

(9月20日参加) 高木自然保護官 井上 岩崎

小方ペア 島 新川 高光 坪井 中道 西

野呂田 花見堂 浜本 東丸 古川 前田

(勲) 前田(正) 松尾 宮崎 森 横山

(9月23日参加) 佐渡 森川 横路

9月7日の台風18号、宮島・厳島神社に1991年の台風19号に劣らぬ傷跡を残し通り過ぎる。我が家も少ないとはいえ屋根瓦40枚等々が飛んだ。先ず自分の家からと、気にはなりながらも宮島の方はテレビで見るだけ。

9月20日の植物群落の調査が包ヶ浦の清掃に、23日のハチクマの渡り観察会が弥山登山道の清掃と機敏なる変更嬉しく納得。

20日9時集合の大元・包ヶ浦は36名も参加、天気も良く、老いも若きも皆元気そのもの。

キャンプ場・川の中は杉・檜の倒木、落ちた枝々が一面に積み重なっている。チェーンソー・ノコ・ナタで小さく切り、3台のトラックに積む、大量の落ち葉は熊手でかき集める。(一日ではとても片付かず、10月2日の作業で見違えるようにきれいになった。)

23日は8時に17名集合。濃い曇り空で雨になるのは確実とみられたが、全員で出発。ノコ・ナタ・熊手・回収袋を持ち、大聖院登山道を歩く、台風後、時間も経過しており歩くのにあまり不自由は感じない。しかしまだまだ顔や頭に当たる木や枝、石段に溜まっている多くの落ち葉。これらを切り、熊手で掃きながら里見茶屋に10時過ぎ到着。途中直径70~80cmもあるモミ・ツガの木などが根こそぎ倒れたり、折れたりしており、ただただ台風の破壊力に驚くばかり。それでも土石流がなかったのは原始林で樹木を伐採しなかったおかげか。

ここで下山組9名と弥山組8名とに分かれる。暴風のつめ跡は弥山頂上まで続く。御山

神社の鳥居も無残に倒れ、消えずの火ではお坊さんが緑の枝のヒノキやツガの木を燃やしていた。少し手伝わして貰う。堂内中、煙だらけで、なんだか身体も頭も良くなったような気がする。

ちょうど正午頃、弥山休憩所に到着。夕立を思わせるような豪雨。

帰路はもみじ谷ルート、登りの時と同じようにノコを使い、熊手



包ヶ浦での作業を終えた仲間たち

弥山の町石しらべ ~その2~

今は見当たらない町石・・・何処に？

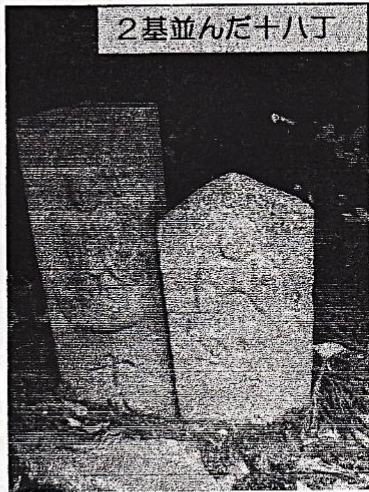
岩崎 義一

◇はじめに◇

宮島弥山への登山道には、数多くの石造物や石仏が眼につきます。なかでも本来は参詣道の道標として建てられた「町石」はよく見ると形も様々で示されている丁目も前後していたり、埋もれていたたり・・・なかなか謎めいています。この弥山「町石」のあれこれについて紹介しましょう。

◇本堂まで十八丁・・・今より短かった!!

弥山道の登り口、地藏堂の基壇に「本堂まで登十八丁」と刻されている。大日堂の石段下に、十八丁の町石が2基ある。登山道が改修される以前、江戸中期には今の頂上まで二十四丁でなく、本堂十八丁の急峻な登山道だった事を示している。



2基並んだ十八丁

◇二十二丁は4基、二十三丁は3基も

建てられた時期が異なる町石が数種類あるため、同じ「丁数」のものがあつたり、「丁数」が前後していることがある。数えながら登っていくと錯覚することになったりする。



文殊堂 二十二丁

仁王門のところは大聖院からの弥山道は「十八丁」大元道は「二十

三丁」で合流する。

◇幻の慶長町石・・・何処に？

最古の「慶長四年町石」は現在八丁に1基だけ残っているが、記録によると仁王門の所と十二丁にも昭和20年代まで存在していたということだ。また十八丁には「大やままわり」と刻された町石も在ったという。

「元文十六丁町石」は十年ほど前の写真も残っている、仁王門を過ぎたあたりにあるはずなのだが、未だ探せずにいる。

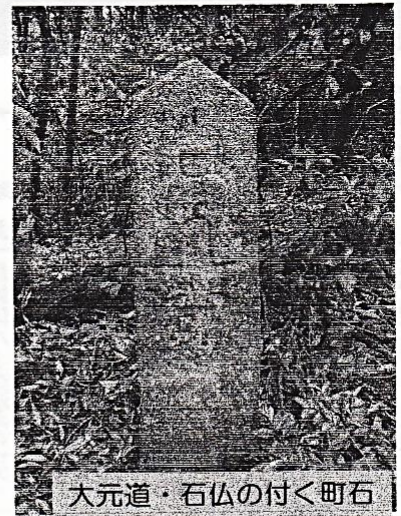
(昭和28年宮島町広報紙による)

◇大元道の町石は「丁」ではなく「町」

大元道は今の登山ルートと違っていて、大元川の橋の手前右手に入ると「一町」「二町」と続き(「三町」は不明)

「四町」で現ルートと合流する。

「二十二町」に三角形の石仏の付く町石が一基あるが、弥山道・奥の院道の江戸期のものと同タイプか、今後検討を要する。

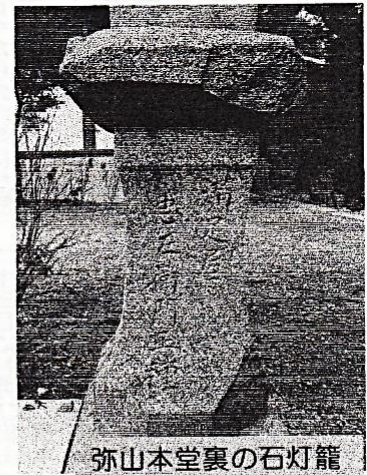


大元道・石仏の付く町石

◇寄進「満足屋」

一丁と九丁(埋もれているので判読出来ない)の元文期町石には「寄進満足屋惣右〇〇」と刻され唯一寄進者が判る。

(満足屋は広島城下の穀物商) また弥山本堂裏



弥山本堂裏の石灯笼

手にも「寄進満足屋忠右衛門正種 奉寄進」

第2回 JPR

大久野島での自然体験

開催場所 竹原市忠海町 大久野島
 日程 8月28日(土)～29日(日)
 スタッフ
 環境省 高木自然保護官、門田利用指導官
 講師 休暇村 大森係長
 人間科学研 志賀所長、大滝
 PV 中道、舛田、松尾
 カウンセラー6名
 ～島内探検～

地図やデジカメ片手に自転車
 で探検。ポイントごと高木
 さんやPVから出される「灯
 台で愛媛を見て一句」等の課題を班ごとにま
 とめ、ビジターセンターで発表会。子どもの
 感性あふれる内容に中道審査委員長も大弱り。



舛田さんの一言が大きなヒント!

～ウミホタルの実験・観察～

大久野島の目玉、ウミホタル。発光実験で
 ため息の出る美しさに感動した後は屋外へ。
 波間に垣間見える姿に「みえた!」「どこ?」
 の声もつかの間、対岸で花火が始まりうれし
 い中断。

～竹の紙すき/ビジターセンター見学～

忙しい朝食の後、2つに分かれて紙すきと
 センター見学。トロイ子には紙すき、お手の
 物の中道・松尾がビシバシ指導。家に素敵なお
 土産ができました。センター見学のメイン
 は「瀬戸内海クイズ」所々の難問にみんな頭
 を悩ませる。全問正解出来たかな?

～台風接近～

船欠航による帰宅不能を防ぐため、昼まで

に宮島口に到着しました。坂元さんの出番は
 急遽、中止など残念でしたが、強風のなかケ
 ガもなく皆無事に帰宅しました。

第3回 JPR

「森の生き物博士をめざせ」

開催場所 安芸大田町(加計)川・森・文化
 交流センター/杉の泊ホビーフ
 ィールド
 10月16日(土)～17日(日)
 PV 松尾
 ～鳥の目/アリの目で
 自然観察～

半数は先ずセンター内で高木
 自然保護官より双眼鏡の使い方
 を学習。「大事に使えば、道具は出来ないこと
 を叶えてくれる味方」という言葉が子どもた
 ちに届いたようで、外では山の上にキラキラ
 とイワツバメの群れ。班によってはクマタカ
 を見ました。そのあと半数と交代し川辺で水
 生昆虫などの指標生物調査。太田川の健康診
 断結果はまずまずとのことでした。

～フィールドビンゴ～

杉の泊に移動するとゲームで水循環につい
 て考えた後、森の探検。毒キノコを抱えた班
 や要領よくビンゴをこなす班などみんな元
 気!元気!



特筆すべき活躍の高木さん!

～大きなツリー～

夕食の後にはみんなで協力して大きなツリー
 を作り、木についてゆっくりと考えました。
 1枚1枚の葉に性格や特徴がよく現れていま
 した。(以下P7右段に続く)

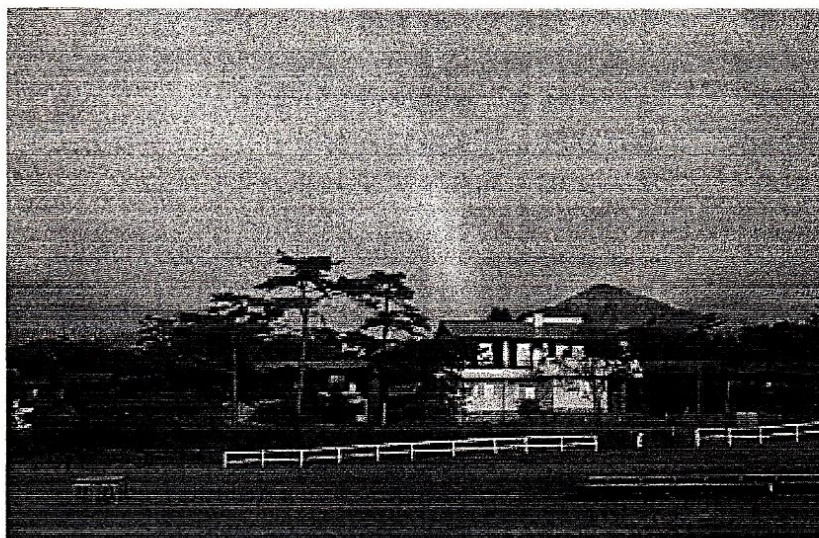
自然解説指導者研修に参加して 横路 晃

9月28日～30日、山梨県清里村で平成16年度、環境省自然解説指導者研修（基礎研修入門コース）を受講する機会を得たので、その感想を含め報告します。

○ 1日目

朝、日の出に映える遠望の富士山。後ろを振り返ると淡紅に染まった八ヶ岳の朝霧にかかる大きな7色の虹。

午後、全国各地から集まった23名は、研修所「アリスホール」前の広場での「各地のお国自慢」でなごやかに打ち解けて、3日間の研修の幕が開けた。



清里の研修所から八ヶ岳の遠望

その後、先輩インタプリターによる見本ともいふべき「森林内の観察」が行われました。森の中で楽しく過ごすための種々の工夫に感心する。

夕方、おりしも近づく台風21号の影響か、激しく屋根を打つ雨の音に講師の声も打ち消されがち。

夜、夕食後の講義のあと、何時とはなく集まった参加者による情報交換会。

○ 2日目 朝から雨

今日は参加者による企画プログラムの野外実習。4人ずつの6班に分かれ、3つのテーマの中の1つを、実際に8人の参加者を前にインタプリテーションするものです。我々のテーマは「森の色いろ探し」

経験度の異なるメンバーでの「ねらい」「本体」「まとめ」の討議。種々の案が活発に出るものの具体的になかなか決まらず、現地での

下見の中でも、試行錯誤が続いたが、本番では予想以上の楽しさと「ねらい」が実行でき、メンバーも喜びあいました。

○ 3日目 朝から快い青空

講師の言葉「昨日の雨は、我々インタプリターへの試練の雨」が印象的。

3日間の講義・実習を通してプログラムのしっかりした「ねらい（目標）」と前向きな姿勢でのちょっと辛口な「ふりかえり（反省・評価）」「わかちあい（相互評価・共有）」の大切さを一貫して感じ取ることが出来ました。

清里の研修所から八ヶ岳の遠望

（ P6から ）

～小動物のトラップ～

朝食前に前日仕掛けたトラップを確認。すると2つの班にネズミがかかっており JPR 6年

目にして最大の快挙。1匹はカヤネズミ、もう1匹は飛び出て鑑定不能。みんなは「ハムスター」といっていましたが・・・

～講義「森と人とのかわり」～

今年話題になったクマを中心に自然との共生についての講義。栗栖さんの実体験による講義に子どもたちは20分以上もおとなしく聞き入っていました。

～今年の JPR を振り返って～

今年は各班に教職をめざす学生ボランティア「カウンセラー」がつき、従来と少し違うパターンの JPR 支援活動でした。

PV は総括や後方支援などコーディネートが主でした。若い学生は子どもに大人気で、少し寂しい気もしました。でも台風や新しい施設などでも臨機応変に即応出来たのは、世代の違う大人がお互いを信頼した結果であり、新しいスタイルをもたらしたものと思っています。

（ 松尾 記 ）

投稿

十和田八幡平国立公園

杉本さんの案内で十和田・八甲田 満喫感動の旅 横山 忠司

10月下旬、以前から訪れたいと思っていた十和田八幡平国立公園に行って来ました。そこには元広島自然保護官の杉本頼優さんが、統括自然保護官として赴任しておられます。杉本さんには最もお忙しい時期にも関わらず、休みをとって車で十和田・八甲田を案内して下さいました。行くところ、すべてが大満足の素晴らしい黄葉（紅葉でなく）の世界でした。

杉本さんの説明では、この時期十和田湖あたりの高度 400m前後のところが最高で、麓に向けては緑も多く、より高いところでは落ち葉が始まっているとのことでしたが、カーナビの高度計もその通りでした。最高のガイドによる、感動の一部を紹介します。

◇ ヒメマス（ベニザケの陸封型）養殖場

朝スタートしてすぐのところであり、運良く5～6人の方が採卵等のため網でマスを捕獲しておられ入れて頂きました。陸封型とはいえ、やはり遡上するのだそうで、杉本さんと見守る目の前で十和田湖からつながる水路を遡上して今しがた空にした生簀に3匹目、4匹目と飛び込んで来ました。

小学生の時に見た和井内貞行がヒメマスの養殖に成功する感動の映画を思い出しました。

銀色の美しい姿のヒメマスは、肉の色もきれいなサーモンピンクです。杉本さんと一緒に夕食で民宿から差し入れの、この刺身や塩焼きを頂きました。おいしかったの一言です。

◇ 八甲田周遊および雪中行軍遭難地

十和田湖畔・城ヶ倉大橋からの溪谷・地獄沼ほか素晴らしい景色を見た後、小説や映画でも有名な明治35年、陸軍の大隊が八甲



地獄沼で杉本さんと

田山の雪中行軍で遭難したところに立つ銅像と記念館「鹿鳴庵」を見学しました。

◇ 鳶野鳥の森自然観察路周遊

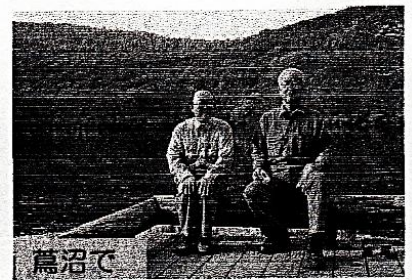
黄葉の見事なブナの林を通り抜け、杉本

さんから「歩くところも是非」と少し時間をかけて鳶野鳥の森を案内して下さいました。

景観の異なる6つの沼を巡る一周 2.9kmのコースで、言葉では言い表せないほどの黄葉に感動した自然観察路です。ハウチワカエデ・ブナ・コシアブラ・ホオ・トチ等々。

◇ 奥入瀬溪流

十和田湖から唯一流れ出す川が奥入瀬川で、14kmの間が奥入瀬溪流と呼ばれ



鳥沼で

特別名勝・天然記念物に指定され、国立公園切手等にも3回登場しています。

自然の造形が生んだ美しい溪流沿いには阿修羅の流れや銚子大滝を初め見ごたえのある景観が続きます。八甲田山頂から黄葉が始まり、今回訪れた10月下旬がこのあたりの最高の黄葉シーズンとのことで、遊歩道もあり、平日にもかかわらず多くのハイカーや観光バスのお客さんが散策しておられました。近ければ何度でも行きたいところです。

◇ 最後に杉本さんから「宮島PVの皆さんお元気ですか、よろしくお伝えください」との伝言がありました。

旅行のコース

仙台・塩釜（船）・松島・松島水族館・平泉中尊寺・十和田湖・八甲田・浅虫水族館・浄土ヶ浜（陸中・船）・仙台。

※青森～仙台間はJRと三陸鉄道9路線を乗り継ぎ一泊二日で念願の陸中海岸電車の旅。

◇ 事務局連絡事項 ◇

PV行事参加者一覧

NO	氏名	①	②	③	④	⑤	⑥
1	足立 清	○	○	○	○	○	○
2	池下 宏	○	○			○	○
3	池田 靖夫	○	○				○
4	井上 軍	○		○	○		○
5	岩崎 義一	○			○		○
6	小方 為子	○			○	㊦	*
7	小方 嗣彬	○			○	○	*
8	小川 加代	○	○	○	○	○	○
9	近藤 芳子						△
10	佐渡 正幸		○			○	○
11	佐藤 庸夫	○	○	○	○	○	○
12	柴田 博						○
13	島 千代喜	○				○	
14	新川 博	○				○	*
15	末原 義秋	○	○	○		○	○
16	高光 幸三	○				○	*
17	竹内 栄太郎			○			
18	田村 博子						*
19	坪井 正明	○					○
20	中道 勉	○			○		○
21	中本 章治			○			○
22	名越 正子						*
23	西 喜三	○		○			○
24	野呂田 恵子	○			○		△
25	花見堂 英延	○					
26	浜本 良子	○		○			*
27	東丸 久	○					○
28	平田 広三郎			○			*
29	平山 美知子	○	○		○		*
30	佛崎 勝弘						○
31	古川 義文	○					○
32	本田 隆徳						*
33	前田 勲	○		○		○	○
34	前田 正人	○		○			*
35	舛田 祐子	○	○				○
36	松尾 健司	○					○
37	丸平 健二	○	○	○		○	○
38	宮崎 春雄	○		○			○
39	村上 光春	○	○		○	○	○
40	森 明彦	○				○	○
41	森川 範吾		○				○
42	柳瀬 佳史	○	○	○	㊦		○
43	矢吹 俊一	○	○	○		○	○
44	山根 浩二	○	○				○
45	横山 忠司	○					○
46	横路 晃		○	○	㊦		○
47	吉田 ヒトミ			○			*
48	六重部 篤志	○	○	○		○	*
		35	17	19	11	16	30
	高木自然保護官	○		○		㊦	○

- ①台風倒木始末、公園清掃 9/20(祝)
- ② 同 登山道清掃 9/23(祝)
- ③ 同 包ヶ浦清掃 10/2(土)
- ④歴史・文化公募観察会 10/17(日)
㊦会員下見に参加
- ⑤公募植物観察会 11/23(祝)
- ⑥ 臨時総会・研修会 11/27(土)
*委任状提出
△研修会のみ参加

※⑤⑥の記事は次号に掲載

◇ 行事予定 ◇

○自主観察会 (奥の院自然観察)
12/4 (土) 9:00 詰所集合

○弥山登山道補修
12/18 (土) 9:00 詰所集合

◇ 幹事会の開催予定 ◇

1月 15日 (土) 10:00~
2月 19日 (土) 10:00~
場所 宮島詰所

◇ 次号発行予定 ◇

発行日 平成 17年 3月 1日
原稿締切日 1月末日
会員の投稿をお待ちしています

瀬戸内海国立公園

宮島地区 パークボランティアの会

事務局 環境省自然環境局
広島自然保護官事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号

広島合同庁舎2号館6階

TEL/(082)223-7450・FAX(082)223-7451

宮島詰所

(〒739-0505) 佐伯郡宮島町 1862-18

(宮島桟橋 2F)